

小学校教員養成課程外国語（英語）における 「英語科指導法」授業改善についての一考察

A study of the ways to improve the Course of English Language
Teaching Method in the Elementary School Teacher Education Program

二 宮 孝 行 相 馬 和 俊*¹ 北 原 英 法*²
NINOMIYA Takayuki SOMA Kazutoshi KITAHARA Hidenori

I はじめに

2011（平成23）年4月，小学校における外国語（英語）教育は小学校5年生からの活動型「外国語活動」から始まった。2020（令和2）年4月には，現行の小学校学習指導要領全面実施に伴い，小学校3・4年生の「外国語活動」から小学校5・6年生の教科「外国語」へと続く，小学校4年間の小学校外国語教育が確立された。2022（令和4）年度は，全面実施3年目（移行措置期間を含めると5年目）となる。

このような外国語教育の変化に伴い，大学における小学校教員養成課程も大きな変化を遂げた。2017（平成29）年には，文部科学省より「小学校教員養成課程 外国語（英語）コアカリキュラム」（以下，「コアカリキュラム」）が示され，小学校教諭免許状の取得を目指す教職課程を有する大学は，コアカリキュラムに基づく授業設計を求められることとなった。

北翔大学においては，小学校において「外国語活動」が必修化されることに伴い，「生涯学習システム学部学習コーチング学科」の時代に「小学校英語（2単位）」が2010（平成22）年度入学生のカリキュラムより開設されている。当時は2年次配当の科目であったことから，実際の開講は2011（平成23）年度である。（教科または教職に関する科目）

その後，2014（平成26）年度に開設された「教育文化学部教育学科」において，現行の学習指導要領に対応すべく，2019（平成31・令和元）年度入学生のカリキュラムより，「英語科概論（2単位）」「英語科指導法（2単位）」（初等教育コース学生が履修しなければならない必修科目）が開設され現在に至る。なお，前者「英語科概論」は1年次配当のため同年度より開講，後者「英語科指導法」は2年次配当のため翌2020（令和2）年度に開講されている。

本稿は，前述のような変遷を辿ってきた本学における小学校教員養成課程外国語（英語）の授業改善に向けた考察を行い，コアカリキュラムに基づきながら「理論と実践」の両輪をより強化した授業転換への一助としたいと考える。

検証方法については，1年次前学期に「英語科概論（2単位）」，2年次後学期に「英語科指

*1 室蘭市立蘭北小学校

*2 室蘭市立星蘭中学校

導法（2単位）」が開講されており、教職課程の2ヶ年で小学校外国語教育の基本を学ぶシラバスが組まれていることから、2科目の履修を終えた段階となる、2年次「英語科指導法」の履修学生を対象に実施したアンケート分析をもとに行うこととする。なお、本稿者が過去に現職教員対象に行ったアンケート結果も活用し比較検討も加えながら考察を進めたい。

Ⅱ 外国語（英語）コアカリキュラムと先行研究

2017（平成29）年に示された「外国語（英語）コアカリキュラムについて」は、「1 全体の構成と各項目の位置づけ」「2 基本的な考え方と留意点」（※いずれも小・中・高共通）、そして「Ⅰ. 小学校教員養成課程 外国語（英語）コアカリキュラム」「Ⅱ. 中・高等学校教員養成課程 外国語（英語）コアカリキュラム」で構成されている。

「Ⅰ. 小学校教員養成課程 外国語（英語）コアカリキュラム」は、[1] 外国語の指導法【2単位程度を想定】と[2] 外国語に関する専門的事項【1単位程度を想定】からなる。

学習内容としては、小学校外国語教育についての基本的な知識・理解はもとより、子供の第二言語習得についての知識とその活用や、小学生の発達段階を踏まえた様々な指導技術を身に付けること等、外国語教育の基礎・基本が幅広く網羅されたものとなっている。

この外国語（英語）コアカリキュラムについては既に様々な先行研究が行われてきている。

それらのうちコアカリキュラムに対する学生の認知度を扱った研究として酒井・内野（2018）が挙げられるが、「当該調査対象の学生においては、教員養成期間においてコアカリキュラムのほぼすべての内容を身に付ける必要がある」との分析や、「特に外国語の指導法に関するシラバスを工夫し、コアカリキュラムで提案されている学習内容を網羅的に含め、その到達目標を達成できるようにする必要がある」との示唆は、本学においてもその認識を共有できる部分が大きいと推察される。さらに、学生アンケート分析をもとにした研究という点でも興味深い。

Ⅲ 北翔大学における小学校外国語カリキュラム

先述のように、本学の初等教育コース（小学校教員免許取得を目指す課程）学生は、「英語科概論（2単位）」「英語科指導法（2単位）」を履修することとなっており、この2科目のシラバスも基本的に外国語（英語）コアカリキュラムの学習内容を網羅している。

その上で、限られた講義時間数の中でいかに効率よく、かつ効果的に英語力・指導力を向上させるかという観点でシラバスを作成している。そうした中、本学の「英語科指導法」の特徴として挙げられるのは「授業実践重視」の視点である。第二稿者が現職の小学校外国語専科教員であること、さらに「英語教育推進リーダー中央研修（LEEP）」、ならびに北海道胆振教育局管内で担当した「グローバル化を見据えた英語教育指導力向上研修」における、現職小学校

教員向けの研修内容も参考にシラバスを検討した点である。

表1 英語科指導法における主な学習内容

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> a. 教室英語（クラスルーム・イングリッシュ）を使っての、児童の発話の引き出し方、やり取りの進め方 b. 絵本や歌、チャンツを活用した言語活動の進め方 c. Unit（単元）構成の考え方 d. 単語や表現の習得に向けた様々な活動の進め方 e. デジタル教材やICTの活用 f. ALTとのチーム・ティーチング（打ち合わせ）の在り方、多様な指導条件への対応 g. アルファベットの文字と音（綴りと発音の関係）についての指導の在り方 h. 単元計画と指導案の作成・1時間の授業の進め方 i. 他教科と関連した内容を取り入れた活動 j. 評価の考え方と方法（パフォーマンス評価やCAN-DOチェックリストの活用） k. 小中連携（中学校英語との区別）と小学校の役割 l. 第二言語習得の考え方 m. その他 |
|--|

IV 学生の意識調査（アンケート調査）の結果と考察

今回の意識調査（アンケート調査）は、2021年度後学期「英語科指導法」履修学生65名を対象に行ったものである。うち60名から有効回答を得た。なお、2022年度後学期「英語科指導法」履修学生59名に対しても受講前に同様の意識調査を行っており、その一部を活用する。

IV-1 英語科指導法授業開始前の不安度

まず、新学習指導要領における小学校英語（外国語活動・外国語）の指導に関する不安（心配）度を、英語科指導法の受講前と受講後で6段階（不安なし「0」～強い不安がある「5」）のどの程度に当てはまるかを尋ねた。

この結果、英語科指導法の受講を始める時点では、1年次に英語科概論を受講しているものの、57人95.0%の学生が高い不安度を示す「4または5」と回答した。どのように小学校外国語活動・外国語を指導すればよいかという不安が当初は非常に大きかったことを示す数値として注目される。

なお、2022年度履修学生（59名中38名から有効回答）に行った同様の意識調査においても、30人78.9%の学生が高い不安度を示す「4または5」と回答した。2ヶ年に限った数値ではあるが、概ね8割以上の学生が小学校の外国語指導を不安視している傾向が窺われる。

IV-2 外国語指導における不安度・心配度の変化

講義履修による不安度の変化という点では、55人91.7%の学生が「受講前の不安は軽減した」と回答し、5人8.3%の学生が、「受講前より不安は増加した」、あるいは「受講前と変化はなかった」と回答した。

この数字をもって、講義内容の確かな習得を示すものではないが、講義履修が概ね学生の不安軽減に繋がったことが窺える。

次に、それぞれの詳細な変化について見ていく。

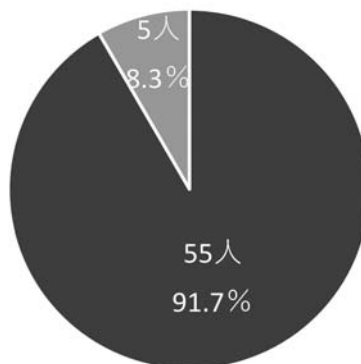
IV-3 不安度・心配度が軽減したケース

講義後の不安度の数値が受講前より小さくなった詳細は下図の通りである。

受講前の不安度が最大の「5」と回答した学生が30人50%と全体の半数を占めていたが、そのうち29人96.7%が受講後に不安度は軽減したと回答している。

また、不安度「4」と回答していた学生27人45.0%のうち、24人88.9%も同じく軽減したと回答している。

これらの中で、大きく不安度が軽減したケースに分類される、受講後「まったく不安はない（不安度0）・不安はあるが小さい（不安度1または2）」と選択した学生は17人28.3%となっている。



■ 軽減した ■ 増加した・変化なし
図1 不安度の変化

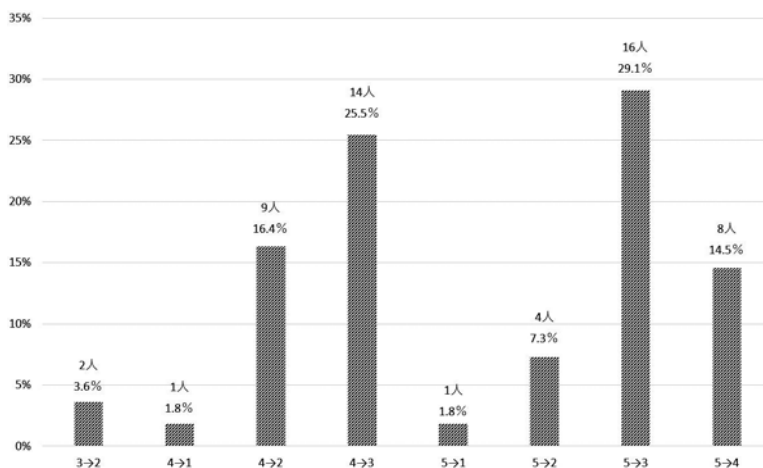


図2 不安軽減の度合い

さらに、受講後の不安度を小学校教員の意識調査（2019 二宮，相馬）と比較すると以下のようなになる。現職教員の不安度に比べ、英語科指導法受講後の学生の方が全体としての不安度が軽減傾向にあることが窺える。

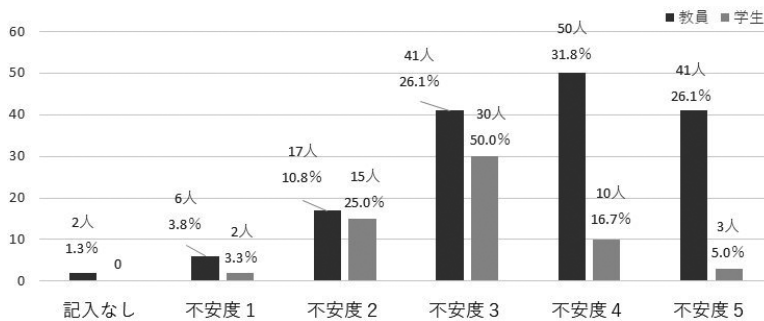


図3 小学校英語に対する不安度

また、これら軽減の理由となる講義内容を5項目ずつ選択させた結果が以下のグラフである。

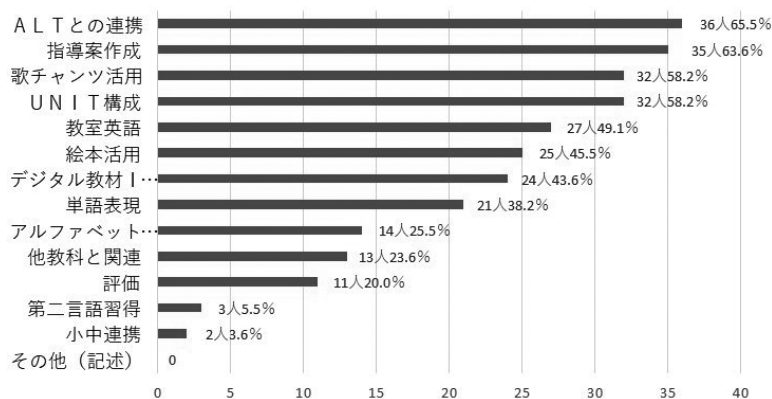


図4 不安軽減の主な理由となる講義内容

小学校教員の意識調査(2019 二宮, 相馬)において、小学校教員が現職研修として最も高いニーズを示した「ALTとの連携(67.5%)」は、今回の学生アンケートにおいても同様の傾向を示した。「UNIT構成の考え方」「指導案作成」「歌やチャンツの活用」「教室英語」「絵本の活用」も現職教員と同様、軽減の理由として多くの学生が挙げている。

一方「評価」については、現職教員は研修の必要性を高く感じている数値(55.4%)を先の調査では示していたが、学生アンケートでは11人20.0%にとどまった。

「選択は5項目」という制約もあったが、学生の意識としては「授業実践に直結する指導法の習得重視」という強い気持ちが窺える。

IV-3 不安度・心配度が増加した・変わらなかったケース

前項とは逆に、講義後の不安度の数値が受講前より小さくならなかった(不安度が増した、または数値が同じ)学生は、5人8.3%である。内訳は、「不安度が増した(1→4)」が1人、同じく「不安度が増した(4→5)」が2人、「不安度が変わらなかった(4→4)(5→5)」が各1人である。

理由としては、「指導案作成」を4人が、「ALTとの連携」「教室英語」「評価」を3人ずつが挙げている。後は、「UNIT構成の考え方」「デジタル教材・ICTの活用」「絵本の活用」「他教科との連携」「第二言語習得」といった項目が2人ずつで続く。記述による記載がいずれもないことから、詳細は図りかねる部分もあるが、実際の教育現場の様子を見聞きしたこと、教員として求められる仕事内容の実際を知ったことで逆に不安度が増したことが推測される。

V まとめ

本稿は、本学における小学校外国語（英語）の講義履修を経た学生のアンケート結果を分析・考察し、「理論と実践」をより強化した授業転換への一助とすることを目的とした。

この結果、以下の点を確認するに至った。

- ①コアカリキュラムを踏まえた小学校外国語（英語）に関する指導内容は、本学においては「英語科概論」「英語科指導法」の2ヶ年2科目によって基本的に網羅されていること。
- ②当該調査対象の学生に限られるものの、本学初等教育コースの学生は小学校外国語（英語）の指導に関して高い不安を感じており、限られた講義時間の中で必要な学習を効果的・効率的に提供することが重要であること。
- ③学生のニーズには「授業実践に直結する指導法の習得」を重視する傾向が見られ、授業参観や授業ビデオの活用等の工夫は、不安軽減に繋がるだけでなく、指導力向上に大いに資することが期待されること。

一方、以下の課題も明らかになった。

- ①当該調査においては学生の英語運用能力に関するデータがなく、情意面の把握に留まらず、英語力の伸長という視点での検証も必要であること。
- ②英語運用力・指導力をさらに伸長させるための英語科概論・英語科指導法に関する講義は、本学においては選択科目という形で3年次以降提供されていないこと。（必修2科目をもって終了）

小学校教員養成課程における外国語（英語）の指導は、一般的に中学校教員養成課程におけるそれと比べ、他教科の指導と共存する特性からどうしても広く浅いものになってしまう側面を有するところがある。

このことは本学においても例外ではなく、現状英語科概論と英語科指導法2科目の中でコアカリキュラムの指導内容をカバーし、かつ実践的な指導法についても手当てするという難しさを含んでいることは否定できない。現在は同一教員による授業担当であることから、英語科概

論と英語科指導法をトータルで見通したシラバスを構成することで指導に当たっているが、今後は質的調査も継続して行いながら、限られた時間を有効に活用したより望ましい授業を提供できるよう一層の改善を図る必要がある。

参考文献・資料

1. 文部科学省「外国語（英語）コアカリキュラムについて」
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2019/04/04/1415122_3.pdf
2. 酒井英樹・内野駿介（2018）「小学校教員養成において必要とされる知識・能力に関する大学生の自己評価－小学校教員養成課程外国語（英語）コア・カリキュラムの点から－」
JES Journal.18. 100-115
3. 鈴木渉・巽徹・林裕子・矢野淳（2019）『コア・カリキュラム対応 小・中学校で英語を教えるための必携テキスト』東京書籍
4. 小川隆夫・東仁美（2020）『小学校英語 はじめる教科書 外国語科・外国語活動指導者養成のために－コア・カリキュラムに沿って－』mpi松香フォニックス
5. 村野井仁（2018）『コア・カリキュラム準拠 小学校英語教育の基礎知識』大修館書店
6. 二宮孝行・相馬和俊（2019）「小学校英語（外国語活動・外国語）における教員の不安軽減を図る効率的な学校内研修の在り方－小学校教員の意識調査から－」北翔大学教育文化学部研究紀要 第4号

